「解答用紙」から人間を見た…、そんな「詩」を紹介します。

ふっと気づいてみたら、僕はゴミ箱の中にいた。
紙屑の間から、仲間が下の方に横たわっているのも見える。

先日の実力テストの日、真剣な表情で書き込んでくれた。
赤い丸ペケがついて、点数が書き込まれるまでは
大切に扱われていた。
教室で返されたときは、両手で大事に挟んでくれた。
けど、僕の幸せはそこまでだった。
気づいたら、嫌われ者のようにゴミ箱へ捨てられた。
大切に扱ってくれた時間は何だったのだろう。

自慢じゃないが、僕には力試しや評価に使われる以上の
利用価値がある。
真剣に取り組んだテスト時間は、君にとって大切な勉強時間
だったはずだ。
普段の学習時間の何倍も集中した、密度の濃い時間
だったはずだ。
僕には、そんな真剣な集中力を引き出す力がある。
だからこそ、僕にはすごい利用価値が生まれてくる。

赤い丸は、君の努力への賞賛だ。
そして、赤いペケは決して君の能力を否定するものではない。
僕を真剣に使ってくれた君へ、僕が贈るエールなんだ。
君に「ここが理解不足だよ。」
　　「これを覚えたらいいんだよ。」
　　「こんなミスはもうしないでね」
と、ささやかなアドバイスをしているんだ。
これに気づいたら、きっと僕のすごさを
君は納得してくれるはずだ。
僕はきっと君のお役に立てると思うよ。
ゴミ箱に捨てないで。
もう一度僕たちを見直して。